22

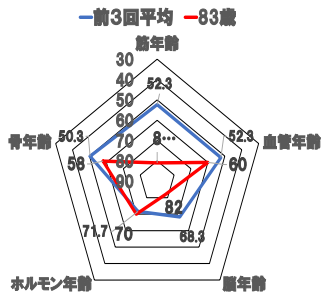
新型コロナ感染後の“ブレインフォッグ”の抗加齢医学的検証
― 心の症状と機能年齢、酸化ストレス度に及ぼす影響について ―

医療法人アエバ会　アエバ外科病院[1]　　四ツ橋診療所[2]
同志社大学大学院医学研究科アンエイジングセンター[3]
草野　孝文[1]　　安井　潔[2]　　米井嘉一[3]

【目的】今回、新型コロナ感染後に“ブレインフォッグ”を訴え、当院でアンチエイジングドックを複数回受検された症例を経験したので、抗加齢医学的検証を加え報告する。【方法】83 歳女性、令和 3 年 5 月某日、発熱 38 度、咳嗽、全身倦怠感、頭重感で発症。翌日近医受診、PCR 検査陽性、在宅療養（カロナール®500mg2 錠内服 5 日間）、10 日間の自宅隔離後解放された。その後、倦怠感、頭重感、抑うつ、不安感などの“ブレインフォッグ”と思われる症状が持続した。当院のアンチエイジングドックに 72 歳,76 歳,78 歳時の過去 3 回の受検歴があり、今回は 4 回目でコロナ発症 5 ヶ月後であった。心の症状は全国 QOL 共通問診表を用いて調べ（全項目 5-1 点）、機能年齢(脳・血管・筋肉・骨・ホルモン年齢)、酸化ストレス度（尿中 8-OHdG 生成速度、血中過酸化脂質<LPO>）などについてコロナ感染前後で比較検討を行った。脳年齢測定にはウィスコンシンカードソーティングテスト[慶應 F-S version]（WCST）を使用した。

【結果】コロナ感染後、だるい 5(←3.7 過去３回平均)、自信が失った 5(←3.3)、健康感がない 5(←4.3)、何か恐怖心を抱く 4(←2.7)、理由なく不安 4(←3)、憂うつ、役に立つ人間でない、くよくよする、意欲がわかない 4(←3.3)と心の症状が増加した。脳年齢 82(←63)歳、筋年齢 81(←52.3)歳と著しく老化した。血管年齢 60(←52.3)歳、骨年齢 58(←50.3)歳、ホルモン年齢 70(←71.7)歳であった。DHEA/コルチゾール比は 4.59=680/14.8(←5.44=640/11.9)ng/ml/μg/dl と低下した。酸化ストレス度は 8-OHdG を 17.7(←2.8)ng/kg/と増加させた。LPO は 3.4(←3.8)nmol/ml と変わらなかった。

【結語】新型コロナ感染後のブレインフォッグは心の症状が増加した病態であり、脳年齢、筋年齢を老化させ、また、酸化損傷・遺伝子損傷を増加させることが示唆された。

機能年齢の推移　過去3回平均比較

コロナ感染後		過去３回平均
脳年齢	82 歳	←(63.0)歳
筋年齢	81 歳	←(52.3)歳
血管年齢	60 歳	←(52.3)歳
骨年齢	58 歳	←(50.3)歳
ホルモン年齢	70 歳	←(71.7)歳